

浜 私 幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No268

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
 〒221-0055
 横浜市神奈川区大野町 1-25
 横浜ポートサイドプレイス アネックス 5F
 電話 045 (534) 8708
<http://www.kids-yokohama.or.jp>
 編集 横浜市幼稚園協会広報部
 発行者 木元 茂
 印刷所 株式会社横浜大気堂

第24回父母セミナー開催

平成28年9月9日(金) 会場:横浜市西公会堂

〈講演テーマ〉

「きれい社会の落とし穴」

講師:藤田 紘一郎 先生



▲ 藤田 紘一郎 先生

横浜市幼稚園協会と横浜市幼稚園父母の会連合会の共催で、保護者を対象に父母セミナーが開催された。今年度は第24回の開催となり、東京医科歯科大学名誉教授で寄生虫博士・カイチュウ博士として知られる藤田紘一郎先生をお迎えし、現代日本社会の超清潔志向とアレルギー病の関係等についてお話を伺った。笑いの多い楽しい講演会となり、500名に及んだ参加者が講演に聞き入った。次に講演の要約をご紹介します。



▲ セミナーでの講演

「バイ菌学への道」

みなさんこんにちは。

私は医学会で変な男として有名です。お腹の中にサナダ虫を飼ってきよみちゃんと名付けています。そんな変な男を横浜市幼稚園協会父母の会は講演会の講師としてご招待くださいました。

今日は腸内細菌を上手に増やすと心も体も元気になり長生き出来るというお話です。

ノーベル賞を受賞した山中教授と私は途中まで全く同じ経歴でした。二人とも柔道二段でマラソン選手、整形外科の医者になりました。そして二人とも手術が大変下手で、二人とも整形外科の医者を辞めました。ところがここからが違いました。山中教授は細胞培養を研究されノーベル賞を受賞しました。私は回虫なんかを研究してしまいコメディアンのようになってしまった訳ですが、コメディアンの生活も50年もやっていると素晴らしい成果を得られました。

私が整形外科の医者からバイ菌学に移ったきっかけ

は大学のトイレで熱帯病の調査団の団長に会ったのが運の尽きでした。嫌々ながら調査団の荷物持ちをすることになり、団長に「君は不器用だから整形外科医は向いていない。回虫の研究が良いだろう」と言われたのです。そんなこんなの中に回虫の研究を始め回虫から細菌の研究に進み、そしてバイ菌学の医学博士になりました。けれどバイ菌学の博士なんてどこの大学でも雇ってくれませんでした。

そこで私は熱帯病を専門にして研究を続け、50年前にインドネシアやフィリピンやタイの熱帯地域に沢山の日本企業が進出した時に、そこでいろんな病気に罹った人たちを治せる日本で唯一の医者になったのです。そして三井物産の嘱託医としてインドネシアのカリマンタン島に6カ月間赴き子どもたちを診察し始めましたが、驚いた事にアトピーや喘息が全く無かったです。

私が50年前にカリマンタン島で撮影した写真では、子どもたちがウンチの流れる川で平気で遊んでいます。当時の私は「こんな所で遊んでいるから病気になるんだ」と言ったものですが、実は彼らは日本の子どもたちよりもずっと健康で今では元気な

おじいちゃんおばあちゃんになっています。不潔な川で遊んでいるのに、アトピーも喘息も花粉症も無いのはなぜなのか。

「二つのヒントからのアレルギー研究」

私は三重県の出身で、杉は子どもの頃から身近な存在でした。モテたい気持ちから女の子の髪を花粉でいっぱいにして金髪にしてあげたりしたのですが、誰一人として花粉症にならなかったのはなぜなのか？ 50年振りの同窓会では「体の中から這い出してくる回虫は誰のが一番長かったか、誰が一番多かったか」などと盛り上がり当時はお腹の中に回虫を飼っているのが当たり前だったのに、今でも病気知らずで元気なのはなぜなのか？

私は子どもの頃の故郷での経験とカリマンタン島での経験からヒントを得てアレルギーの研究を始めることにしました。

その当時順天堂大学の助教授だった私は、他実験で不要になった犬の回虫で研究を重ねました。そして寄生虫の分泌排泄管の中に分子量2万のタンパク質があり、それが人間の体内に入るとアレルギーを抑えられるのだということが分かりました。

みなさんの三人に一人が花粉症になりますが私はありません。それはなぜなのかというと、お腹の中にサナダ虫を飼っているからです。きよみちゃんと名付け、今は15メートル位になっています。このきよみちゃんが私のお腹の中にウンチやオシッコをばらまいて、そのウンチの中の2万のタンパク質がアレルギーを抑えてくれるのです。

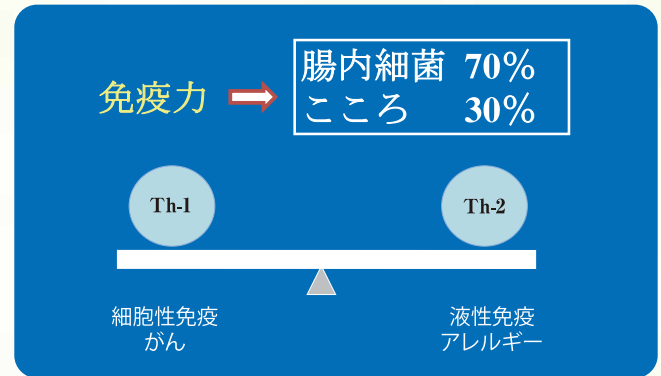
アレルギー反応というのは肥満細胞が破れた状態のことです。一度破れた肥満細胞は、例えばアトピーであれば皮下で破れ続けます。それが反応し皮膚が赤くなり痒くなるのですが、それに対する薬は出てきたヒスタミンを中和する抗ヒスタミン剤しか無いのです。だからアトピーになると症状を抑えることは出来ても治すことが出来ません。

ですが私が寄生虫から発見した2万のタンパク質を注射すると肥満細胞を破れなくする作用があるのが分かりました。

アトピーや喘息を一発で治す薬。こんな薬は世界中を探してもありませんから、私はその薬を作る研究を始めました。

ネズミの食事中にストレスを与えてアトピーにし、遺伝子組み換えで作った薬をたった一回注射しました。するとたった一回、本当にたった一回で驚きの結果が出たのです。私は大金持ちになれると思

いひよっとしたらノーベル賞をもらえるかとも思ったのですが、この薬はダメでした。アトピーや喘息を一発で治す効果があるのに、ガンになりやすい体にするということが分かったのです。



「免疫とバランスの関係」

免疫は二つの工場で作られています。TH1とTH2です。TH1は毎日出てきてガン細胞をやっつけ、そしてTH2はアレルギーを抑えるのです。これが丁度シーソーの上に乗っている訳です。人間は一日に1万個のガン細胞を作りますが、それは私たちの築いた文明社会によるものです。地下鉄に乗る為のICカードは改札を通る時に電磁波がわっと出て私たちの体の中には活性酸素が生まれます。活性酸素は細胞をガン化します。電子レンジを使わないと食べられない物も増えてきましたが、この電子レンジも活性酸素を生み出します。添加物の入った食品も活性酸素だらけ。私たちは活性酸素の世の中にいて、それがガンを作っているのです。

**私たちのつくった文明社会が
活性酸素を多量に生んでいる**

ICカード、電子レンジ、抗菌グッズ、放射能水道水、添加物の入った食品、噛まずにおいしいと感じる食品

活性酸素は免疫を低下させる
細胞を老化する、寿命を短くする、細胞をがん化する
活性酸素が原因の病気は200種ある
脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病、高血圧、アルツハイマー、認知症
抗酸化作用のある食品

- 1) 植物化合物（フィトケミカル）
- 2) 酵母、カビ、腸内細菌
- 3) プロポリス
- 4) 地中からわき出た生水

そうして人間は一日に1万個のガン細胞を作っているのですが、TH1がしっかりしているとインターフェロンやNK細胞を出してガン細胞をやっつけるのです。

TH1を大きくする条件は腸内環境が70%を握っていて、残りの30%が心です。ですからお母さんの手作りの野菜や豆類や穀類を摂り発酵食品を摂り添加物の入った物をあまり食べないで腸内環境を整え、そして笑って生き甲斐のある生活をしていることが

大切なのです。

そうやって TH1 はガン細胞と闘っているのですが、先程もお話した通り TH1 と TH2 はシーソーに乗っている状態です。そこに私が作った薬を注射したところ、TH2 が大きくなってアトピーも喘息も一発で治す代わりに思いもよらないことが起こりました。免疫のバランスを失って TH1 が小さくなり、出てくるガン細胞を見逃してガンになりやすい体を作ってしまったのです。



「きれいな社会の落とし穴」

みなさんお気づきかもしれませんが、こんなに西洋医学が発達してもアトピーも喘息も増えるばかり。鬱も増えるばかり。自閉症も増えるばかりです。どんなに医学が発達しても苦しむ病気が増えているのが現実です。それは、ガンや鬱やアレルギーなどのバランスの病気は薬では治せないということです。すなわち自然治癒力が必要なのです。私たち人間はこの地球上に 40 億年生きていますが、ワクチンも抗生物質もない時代を生きてこられたのは自然の中でもらっていた力のおかげです。それを私たちの作った文明社会が自然治癒力を落とすように誘導しているのです。

私は、サナダ虫のきよみちゃんも自然治癒力のひとつだと考えています。きよみちゃんは元気の良い時には一日に20cmも伸びて20万個の卵を産みます。きよみちゃんは私が元気よく美味しい物を沢山食べて欲しいと思っているはずですが、私が喘息になって元気が無くなったらステーキは食べられなくなり、それではきよみちゃんが成長出来ないし卵も産めなくて困るのです。だからきよみちゃんは私が喘息にならないようにしているのです。ガンにならないようにしているのです。サナダ虫のきよみちゃんは人間の体の中ではないと卵を産めません。だから人間の体をとっても大事にします。きよみちゃんだけでなく私たちの体の中にいる腸内細菌も同じです。

バイ菌とか寄生虫には敵と味方があるのです。それを知らないでバイ菌は怖いからと言って良い菌も悪い菌もみんな追い出してしまおう、私たちの作ったきれいな社会が必要な常在菌を不足させているのです。皮膚には皮膚常在菌がいないと守られない、それを、インフルエンザが流行ったと行ってゴソゴソ洗い落としてしまおう。もちろん手を洗うことは大切ですが、洗い過ぎてはいけません。守っている常在菌が取れて角質がバラバラになり乾燥するからバイ菌やアレルギーが入ってくるのです。

免疫力を高める方法

70%は腸内細菌がつくる

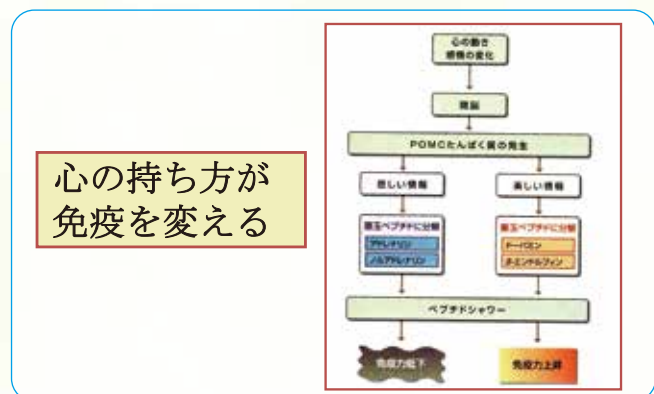
- 野菜類、豆類、穀類の手作りの食物をとる
香りがあったり、色のついた果物をとる
- オリゴ糖や食物繊維をとる
- 発酵食品(納豆、みそ、漬物、ヨーグルトなど)をとる
- 保存料などの食品添加物、防腐剤の使用をできるだけ避ける

30%が内分泌・神経系の刺激がつくる (自然免疫力)

- 自然に親しむ
- 笑って楽しく生活する
- 運動する
- 規則正しい生活をする
- ポジティブな思考をする

産まれたばかりの赤ちゃんがそこらじゅうの物を口にして舐めるのには訳があるのです。無菌状態のお母さんのお腹の中から出た瞬間に周りは菌だらけ。だから免疫を付ける為の本能的な行動なのですが、お母さん達はおっぱいを消毒し哺乳瓶を消毒し免疫が付かないようにしてしまうのです。そうしたきれいな社会の落とし穴こそが現代の子どもたちのアレルギーに繋がるのです。

免疫を上げるのは簡単なことです。70%の鍵を握る腸内環境を整える為に野菜、豆類、穀類、発酵食品を摂り、添加物をあまり摂らないように心掛ける。そして心が占める 30%の為に自然に親しみ笑って楽しくポジティブに生活する。運動を楽しんで規則正しい生活をする。ただそれだけです。免疫を上げるのにお金は掛かりません。心の持ち方で変わるのです。



第2回 教員研修会報告

平成 28 年 10 月 19 日(水)に横浜市内幼稚園教職員の保育の質を高めるための研修会が 3 分科会場に分かれて開催された。

第1分科会

子どもたちからの警鐘
～笑顔のない・大人になれない子ども～
人間は何処へ行くのか？

講師：国立病院機構仙台医療センター
成育医療センター小児科
田澤 雄作 先生

会場：横浜市鶴見公会堂

小児科医である田澤先生より、メディア（テレビ・ビデオ・ゲーム・携帯・パソコンなど）に触れることによる子どもへの影響についてお話をいただいた。

メディア漬けになることで、親子のまなざしが奪われ、自尊心が育たず、寂しく自信もなく、笑顔になれない子どもを作り出してしまふ。3歳児が「私もスマホになりたい」という発言をしたということは、衝撃的だった。メディアが身近にある時代だが、子どもたちが、生まれてきてよかった・愛されている・生きていてよいと感じ、子ども時代を子どもらしく過ごせるように環境を整えていくことが大切である。このことを、子どもの周りにいる保護者にも伝えていく必要があると感じた。

(高木学園附属幼稚園園長 高木彩子)

第2分科会

乳幼児期からのアクティブラーニング
～乳幼児期に育てたい力～

講師：関東学院大学 教育学部
こども発達学科専任講師
久保 健太 先生

会場：横浜市港南公会堂

この分科会では、乳幼児期におけるアクティブラーニングについて学んだ。アクティブラーニングとは、心と体を動かして学習すること。これまでの学習は、頭を動かすことに力を注ぎがちだったが、これからの学習では、心と体を動かそうということだ。

そう考えると、乳幼児教育はアクティブラーニングを大事にしてきたとも言える。子どもたちは、「やりたいこと」があるからこそ学びだす。やりたいことに挑戦し、「やりたくてもできない」ことを繰り返す中で、「やった！できた！」という経験を得ることができる。

このような子どもの育ちを、子どもの具体的な姿から考える機会となった研修会だった。

(港北幼稚園園長 渡邊英則)

第3分科会

非言語コミュニケーション

講師：宝塚大学
東京メディア芸術学部教授
竹内 一郎 先生

会場：横浜市西公会堂

第3分科会は、Nonverbal Communication（非言語コミュニケーション）について学んだ。

人に何か話すとき、実はしゃべり方、間、表情、アクション、衣服といった「見た目」によって伝達の度合いは大きく変わってしまう。竹内先生はこれらの「見た目」を「外見」「動き」「表情」「声」「空間」「接触」「色と匂い」の7つの要素に分類し、例えばこれらの要素に通じた俳優と未熟な俳優では同じ台詞を喋っても観客に与える感動がまるで違うなど、それぞれ具体的にお話してくださった。

7つの要素を上手にコントロールし、伝達効果は高めるために、笑う練習や声の高さを変える練習などを会場全体で行った。

(上白根幼稚園園長 岩崎泉)



新規採用教員 夏季研修会

平成 28 年 8 月 4 日（木）・5 日（金）／かながわ労働プラザ・技能文化会館

新規採用の教員の指導力の向上をめざし、新規採用教員研修会を毎年 5 月、8 月に開催している。5 月には昨年度新卒で教員になった一年目の先生方の体験談と、聖徳大学・同教職大学院兼任講師／道灌山学園保育福祉専門学校非常勤講師の赤坂榮先生の講演が行われた。

そして 8 月には、4 日・5 日の 2 日間にわたり夏季研修会を行った。

8 月 4 日午前中の全体会では、「今、伝えたい私の保育」をテーマに先輩先生 3 人のシンポジウムがあり、午後からは 1 グループ 7 ～ 8 人に分かれてのグループディスカッションを行い、一学期の保育を振り返りながら子ども理解や教師としての学びを深める機会となった。

5 日は「音楽遊び」「身近な自然」「人とのつながり」「遊び心」の科目に分かれ実技研修を行った。夏休み中の 2 日間にわたり 323 名の新任の先生方が一同に会し、今後に向けて励みとなる充実した研修会となった。

A 音楽遊び 「いろいろな音楽遊びで楽しもう」

講師：永岡 和香子 先生
(浜松学院大学短期大学准教授)

音楽遊びのレパートリーを広げ、そのバリエーションの可能性に触れる研修会でした。



B 身近な自然 「身近な自然と親しもう」

講師：佐々木 洋 先生
(プロ・ナチュラリスト)

身近に見ることのできる自然物、生き物、注意が必要な生き物の豆知識を学び、午後は実際にフィールドに出て自然に親しむゲームを行いながら自然観察を行いました。



C 人とのつながり 「人とのつながりの中で表現しよう」

講師：松本 光世 先生
(太陽の子芸術教育研究所・ワークショップ講師)

子どもの視点と大人の視点の両面から、さまざまな表現と発見を楽しみ、お互いのつながりを大切にしながら、想像力と創造力を現場で生かす方法を学びました。



D 遊び心 「遊び心を磨こう」

講師：大潤 弘幸 先生
(劇団風の子 国際児童演劇研究所講師)

「遊び」の中には、表現すること・コミュニケーションすることがたくさん含まれています。今回のワークショップでは実際に遊ぶことにより、表現すること・コミュニケーションすることの楽しさや難しさを発見しました。



子育て
相談室より

子育て、ないたりおこったり

臨床心理士／横浜市幼稚園協会 子育て教育相談室相談員 大森 由紀

木々の緑が赤く色を変え、やがて葉をおとし…、季節の移り変わりを感じます。みなさん、いかがお過ごしでしょうか。少し前は、運動会シーズン。園での初めての運動会を迎えた年少さんはとまどう姿さえかわいらしく、そんな年少さんのとなりには“ぼく、知ってる！”“わたし、できるわ！”とところどころに自信をのぞかせる年中さんの顔。年長さんは、練習をへて“今日が本番”ということがわかるようになり、期待と不安を経て達成感につながる体験になっているとうれしいなあと思います。

今年は10月半ばまで週末といえば雨ということが多く、週間天気予報をみながらお弁当づくりに頭を悩ませたお母さんも多かったかと思いますが、行事が終わってほっと一息、ふりかえるとどの子ども4月からちょっとずつ成長している、そんなことを実感されている頃ではないでしょうか。

これから寒くなるにつれて室内で過ごす時間が長くなってきます。そんなときに親子で楽しめる絵本を探してみました。その名もずばり『おこる』（中川ひろたか・作、長谷川義史・絵、金の星社）です。私事になりますが、相談の仕事をしているという、あたかも普段から穏やかな人であるかのように思われることがあります。もちろんそんなことはなく、家に帰れば私もひとりのお母さん。子どもを叱りつけたあとで、“ちょっと怒りすぎた〜”と落ち込んだことは数知れず。そんなとき、よく手にとり子どもたちが寝る前に読んでかかせたのがこの本でした。

タイトルは『おこる』ですが、ページをめくるとまずは主人公のぼくの「おこられた」エピソードが並べられていきます。朝寝坊したり、兄妹げんかしたり、遅刻したり…、ささいなことから人に迷惑のかかることまで子どもの日常は怒られることに満ちあふれています。月曜から日曜まで怒られることにこと欠かないぼくがちょっと気の毒に思えてきますが、どれも大人からみたら“そりゃ怒られるだろう”というようなことばかりなので、ここを読みながらひそかに昼間、子どもを叱った自分も“それでいいんだよ”と言われているような気がして慰められていきます。やがて主人公のぼくは「こうなったら おこられないところに いく！」

と暗い海に舟をこぎだしていくのですが…。どんなことをしても誰からも怒られない世界は「さびしすぎる」と気づきます。

場面はかわって、「ちょっとしたことで すぐ おこる」お友達のお話。「なんで ひとは おこるんだろう」とぼくは考え、今度はぼくの「おこる」エピソードが挙げられていきます。妹にままごとをやりっぱなしにされたり、大切なおもちゃをお母さんに捨てられたり、お父さんには約束を破られたり…。“そりゃ怒りたくなるよねえ”なんて気持ちで読んでみると、“子どもにだって怒りたくなる時があるのよ、わかる？”というわが子からの視線を感じ、“はい、ごめんなさい”と目線で返して、昼間母が怒りすぎてしまったことについては一応おしまい。

物語の中でも、お友達に靴を隠されたぼくは怒り、お友達はすぐに謝って靴を返してくれて、仲直りできるのですが…。最後にぼくは思います。「おこったあとして ころは どんより。おこったからって きもちが すっきりするわけじゃない」「なるべく おこらない ひとに になりたいんだけどなあ」…そう、本当は、お母さんだって、なるべく怒らない人になりたい。このフレーズを口にして物語を終えるころには、今度似たようなことがあったときには怒りすぎずにもうちょっと子どもにわかる言い方を考えよう、という気持ちになれる一冊です。

同じ作者で『ないた』（中川ひろたか・作、長新太・絵、金の星社）という本もあります。泣くということも、怒る／怒られると同じくらい、子どもの成長にかかせないことだと思います。何で泣くんだろう？ どうして怒るんだろう？ 答えを急がず、親子であれこれ話してみるのも楽しいかもしれませんよ。



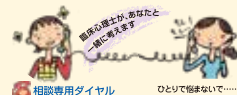
子育て教育相談室

【相談日】

毎週火曜日・金曜日（年末年始、祝祭日を除く）

【受付時間】

10時～12時 13時～15時



相談専用ダイヤル ひとり悩まないで…

045-534-8837

公財社団法人 横浜市幼稚園協会
TEL. 045-534-8708

横浜幼稚園・認定こども園就職フェア開催

9月3日(土) 横浜そごう9階/新都市ホール

今年も夏休みが明けた9月3日(土)、横浜そごう9階の新都市ホールで、「幼稚園・認定こども園就職フェア」を行いました。横浜市幼稚園協会主催の今年で2回目になるイベントです。

当日、フェアに集まったのは横浜近郊の大学、短大、専門学校や、再就職を目指す方。案内を出したり、横浜市幼稚園協会のホームページで知らせたりしましたので、北海道や岩手、京都からの来訪者もあり、参加者数は414名になりました。

ホール内には、前もって応募した横浜市幼稚園協会加盟の122園の各ブースが並び、それぞれ工夫を凝らしたパネルとともに熱いアピールがなされていました。

また、ホールの入り口付近では新任の先生のトークショーもあり、質問する姿や「わかりやすく身近な情報だった」「大変参考になった」というアンケートからも、学生さんが熱心に参加していた様子がうかがえました。

子育て支援が大きく取り上げられ、保育、幼児教育がさらに注目されている今、幼稚園・認定こども園にとって、教諭の人材確保は重要な課題の一つです。今回のような広い視野に立った就職活動は、より質の高い保育、よい将来を目指すことにつながるでしょう。

平成29年の就職フェアは、8月5日開催予定です。

(広報部長 浅沼郁子)

横浜幼稚園 認定こども園 就職フェア

2016年9月3日(土)
11:30~16:00
会場:9階 新都市ホール

主催 公益社団法人 横浜市幼稚園協会





子どもの微小な世界のきら燦めき —神は細部(ディテール)に宿りたまう—

寺尾第二幼稚園園長
亀井 観一郎

秋の運動会が終わり幼稚園の保育室を覗くと、男の子たちが3人で、1m四方の大きな紙の上に何やら造っていました。よく見ると運動会の会場やトラックがジオラマのように作っており、テントや建物まであります。また、紙で作ったこびとさんが5人走っています。お客さんの席も作っており、私は横からそっと見ていました。男の子が小さな声で「〇〇くんが1番!」と呟いています。私はこの運動会の雛型モデルを見て、深層心理学者たちが、子どもはある精神的に大きな体験が起こると、それを遊びの形に変容させて再体験する、という心的事象を発見したことを想起しました。

また別の日、年長組の保育室では回転寿司屋さんが大賑わい。積木で動くカウンターが出来ていて、ままごとのお皿に赤い折り紙で出来た「トロ」や黄色い「卵焼き」、「いくら」が並び、「えび」には、えびをめくると「わさび」が草色の紙でちゃんと挟んであります。私もお客さんとなって「中トロください」と言うと、中トロがフワリと宙を飛んできました。お寿司屋さんはお客がどんどん来て忙しくなったのでしょうか。お寿司を作る子、お店の机や回転寿司の動くベルトにお皿をのせる子、座席を作る子、お客を呼ぶ子と各々の係が役割を演じています。子どもは成長に伴い、自分たちで遊びを劇の如く演出し、脚本を書き、主演、助演を演じ、大道具、装置をつくり、お客を呼ぶという組織だった遊びが出来るようになります。食べ終わって「幾らですか」と尋ねると「1万円です」と声がかかります。「お金が足りません」

と私。すると隣の子が「おてて(お手々)お金でいいよ」と教えてくれました。おててお金とは、例えば100円玉を手でつまむようにして「はいっ」とお店屋さんの手にお金を払う仕草のようです。私はその可愛いアイディアに嬉しくなって、「ハイッ!おててお金っ」といって「うそこ」のお金を払いました。

さて、紙で作った運動会のミニアチュールといい、小さな紙の1cm程ののり巻といい、子どもは小さきものが大好きです。そういえば以前の造形作品展の時、5mmくらいの「ありんこのベッド」がそっと飾ってありました。

大人もまた小さなお米の粒に墨でお経を書いたり、5cmくらいの豆本を好んで集めたり、お雛様が人の「雛型」ではありませんか……。


「東海の 小島の磯の白砂に われ泣きぬれて 蟹とたわむる」(石川 啄木)

このように人は小さきものを愛で、微小の世界に全宇宙を縮めて「箱庭」のような世界を造るのを好みます。幼稚園の砂場には、山、川、海が造られ、子どもは自ら神となって天地を創造します。天を突くような巨大な物ではなく、たとえば幼児がじっと見つめるキラキラしたごく微小な世界にこそ真なる、永遠なるものは存在するのかもしれない。まさに「神は細部(ディテール)に宿りたまう」(アビ・ヴァールブルク) ですね。

Congratulations

**平成28年度神奈川県私立学校教育功労者表彰
受賞おめでとうございます**

角和 一太郎 先生
(学校法人ニューライフ学園ニューライフ幼稚園 理事長・園長)



※横浜市幼稚園協会の理事として研究部や経営管理部、渉外部、労働保険事務組合の各分野に従事するとともに、広報部長として私立幼稚園の果たす役割についての周知に努めた。ほか、県私立幼稚園連合会及び全日本私立幼稚園連合会の役員としての活躍に対し、神奈川県知事より教育功労者として表彰された。

編 集 後 記

今年の秋も様々な講演会や研修会が行われました。父母の会の会員の皆さまをはじめ、教員たちも知識や技術の向上に励む機会を与えられ、子育てや保育のプラスになったことと思います。

まもなく2学期も終了です。

日々の生活やたくさんの行事を経験し、子どもたちの成長は目覚ましいものがあったことでしょう。

冬番に備えて、健康管理をしっかりして子どもたちの輝く笑顔と共に新しい年をお迎えください。

(広報部 武田敦子)